

2010年(平成22年)2月23日(火曜日)



奇跡の生還を感謝する安らぎの絵画展―豊橋
ハートセンターギャラリーで

生きる喜び絵筆に託す 橋

津本さんが「安らぎの絵画展」 豊

1枚の色紙絵に、生きる幸せを託す会社社長の「安らぎの絵画展」が、豊橋市大山町の豊橋ハートセンターギャラリーで開かれている。27日まで。

一宮市内で商業デザイン、施工業を営む津本芳久さん(70)の個展だ。津本さんは10余年前、心筋梗塞(そく)で倒れ、心肺停止で4日間意識不明だったが、奇蹟的に生還。

それを機に絵を描きはじめた。デザイン画は本職なので、その感性を絵筆に託し命ある感謝をアートと言葉で表現。多くの人と喜びを共有したいと、名古屋ハートセンターギャラリーで披露した。

それが好評だったので、豊橋の人にも見てもらいたいと今展を企画した。モチーフは庭の花や食卓の野菜、果物など身近なもの。ワサビ2本を描いた作品には「身清く一味辛し人生道」の句を。こつこつとした山芋には「土のなか耐えて粘りの山の芋」。ネギ1束の横には「食文化ネギのわき役味本番」を添えた。

この他、開運だるまやナス、里芋、バラの花、ぶら下がったサケ2本など、さわやかな筆致が描かれている。見舞い客や診察待ちの患者などが、足を止めてじっくりと見入っていた。(星野のりこ)